

# 第168回 世界恐慌後のヨーロッパ

## 1 イタリアのファシズム

- 第一次世界大戦で勝利国となったイタリアだが、領土をあまり獲得できず、ヴェルサイユ体制に不満を持っていた。
- また経済の混乱から北イタリアでは、社会党左派（後のイタリア共産党）の指導によりストライキが発生するなどしていた。



ムッソリーニ  
イタリアの独裁者。  
頭が良く演説も巧み  
であった。

- ◆ ( ) (在任 1922～1943年)
- 1919年、ムッソリーニは、議会制民主主義を否定する ( ) をかかげ、( ) を結成した。  
→1922年、( ) を行い、国王の指示で政権の座についた。  
→ファシズム大評議会を最高議決機関とし、( ) を確立した。

### <世界恐慌前のムッソリーニの対外政策>

- 1924年、ユーゴスラヴィアから ( ) を奪い、併合した。
- 1926年、( ) に進駐し、保護国とした。
- 1929年、( ) を結び、ローマ教皇と和解した。  
→ローマ市内に ( ) が成立することを認めた。
- 対外的には成功をおさめたが、世界恐慌でイタリア経済は悲惨な状況となった。



ローマ進軍

ファシスト党独自の武装組織を黒シャツ隊という。2万人の黒シャツ隊は、政権奪取を目的にローマへ向かって行進した。



ローマ式敬礼

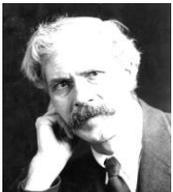
古代ローマ帝国の栄光の復活を目指したムッソリーニは、右腕を上げるローマ式敬礼を取り入れた。ヒトラーが真似をしたことで有名となった。



ラテラノ大聖堂(ラテラン大聖堂)

教皇領の歴史はしっかりおさえておく必要がある。どうやって成立し、どうやって消滅し、どうやって復活したかまでを確認。

## 2 世界恐慌とイギリス



マクドナルド  
失業保険の削減は労働党内の支持を得られず、労働党から除名された。そこで保守党などと組んで再び首相となった。

- ◆ ( ) (第2次) (労働党) (在任 1929～1931年)
- 1929年、世界恐慌の影響からイギリスも大不況となり、失業者が激増した。
- 1931年、政府の支出を抑えるため ( ) にふみきった。  
→与党の労働党が反対したため、内閣総辞職となった。
- ◆ ( ) (挙国一致内閣) (在任 1931～1935年)
- 1931年、( ) を行い、ポンドの切り下げを行った。
- 1932年、カナダで ( ) (イギリス連邦経済会議) が開かれ、( ) 方式をとることが採択された。
- 1933年、ロンドン世界経済会議が開かれたが、成果はなかった。

